

D I ニュース

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	メモリー錠5mg・20mg	劇	市販直後調査 平成23年3月～平成23年9月
(英名)	MEMARY TABLETS		
(規格・含有量)	5mg/1錠 1錠中に有効成分メマンチン塩酸塩 5mg を含有 20mg/1錠 1錠中に有効成分メマンチン塩酸塩 20mg を含有		
(一般名)	メマンチン塩酸塩		
(メーカー名)	第一三共		
【薬価収載日】	2011年3月		
【薬価】	(5mg錠:133.90円) (20mg錠:427.50円)		
【薬効コード】	87119		
【薬効分類名】	NMDA受容体拮抗 アルツハイマー型認知症治療剤		
効能・効果	中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制		
用法・用量	通常、成人にはメマンチン塩酸塩として1日1回5mgから開始し、1週間に5mgずつ増量し、維持量として1日1回20mgを経口投与する。		
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		
相互作用	他剤作用増強 ドパミン作動薬(レボドパ等) 他剤作用減弱 ヒドロクロロチアジド 本剤作用増強 ①腎尿細管分泌(カチオン輸送系)により排泄される薬剤(シメチジン等) ②尿アルカリ化を起こす薬剤(アセタゾラミド等) 本剤・他剤作用増強 NMDA受容体拮抗作用を有する薬剤(アマンタジン塩酸塩、デキストロトルファン臭化水素酸塩水和物等)		
副作用	重大な副作用 痙攣、失神、意識消失、精神症状 その他 便秘、体重減少 など		

(薬品名)	エディロールカプセル 0.75 μg	劇	市販直後調査 平成23年4月～平成23年10月
(英名)	EDIROL		
(規格・含有量)	0.75 μg/Cap 1カプセル中、有効成分エルデカルシトール 0.75 μg を含有		
(一般名)	エルデカルシトールカプセル		
(メーカー名)	中外製薬		
【薬価収載日】	2011年3月		
【薬価】	98.80円/1Cap		
【薬効コード】	873112		
【薬効分類名】	骨粗鬆症治療剤(活性型ビタミンD ₃ 製剤)		
効能・効果	骨粗鬆症		
用法・用量	通常、成人にはエルデカルシトールとして1日1回0.75 μgを経口投与する。ただし、症状により適宜1日1回0.5 μgに減量する。		
禁忌	妊婦、妊娠している可能性のある婦人又は授乳婦		
相互作用	本剤副作用増強 ①カルシウム製剤(乳酸カルシウム 炭酸カルシウム等) ②ビタミンD及びその誘導体(アルファカルシドール カルシトリオール等) ③PTH製剤(テリパラチド) 他剤副作用増強 ①ジギタリス製剤(ジゴキシン等) ②マグネシウムを含有する製剤 酸化マグネシウム 炭酸マグネシウム 等		
副作用	重大な副作用 高カルシウム血症、急性腎不全、尿路結石 その他 尿中カルシウム増加、血中カルシウム増加など		

(薬品名)	レミニール OD 錠 4mg・12mg	劇	市販直後調査 平成 23 年 3 月～平成 23 年 9 月
(英名)	REMINYL OD Tablets 4mg・12mg		
(規格・含有量)	4mg/1錠 1錠中、ガランタミン臭化水素酸塩 5.1mg(ガランタミンとして 4mg)を含有 12mg/1錠 1錠中、ガランタミン臭化水素酸塩 15.4mg(ガランタミンとして 12mg)を含有		
(一般名)	ガランタミン臭化水素酸塩口腔内崩壊錠		
(メーカー名)	ヤンセンファーマ		
【薬価収載日】	2011 年 3 月		
【薬価】	(4mg 錠:119.60 円) (12mg 錠:271.00 円)		
【薬効コード】	87119		
【薬効分類名】	アルツハイマー型認知症治療剤		
効能・効果	軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制		
用法・用量	通常、成人にはガランタミンとして 1 日 8mg(1 回 4mg を 1 日 2 回)から開始し、4 週間後に 1 日 16mg(1 回 8mg を 1 日 2 回)に増量し、経口投与する。なお、症状に応じて 1 日 24mg(1 回 12mg を 1 日 2 回)まで増量できるが、増量する場合は変更前の用量で 4 週間以上投与した後に増量する。		
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		
相互作用	本剤・他剤作用増強 ①コリン作動薬(アセチルコリン、ベタネコール、アクラトニウム等) ②コリンエステラーゼ阻害剤(ネオスチグミン等) 他剤作用増強 ①スキサメトニウム ②ジゴキシン ③β遮断剤(プロプラノロール、アテノロール、カルベジロール等) 本剤・他剤作用減弱 抗コリン剤(アトロピン、ブチルスコポラミン、トリヘキシフェニジル、ピペリデン等) 本剤副作用増強 ①CYP2D6 阻害作用のある薬剤(アミトリプチリン、フルボキサミン、パロキセチン、キニジン等) ②CYP3A4 阻害作用のある薬剤(イトラコナゾール、エリスロマイシン等)		
副作用	重大な副作用 失神、徐脈、心ブロック、QT 延長、肝炎 その他 食欲不振、食欲減退、頭痛、悪心、嘔吐、下痢など		

(薬品名)	ネバナック懸濁性点眼液 0.1%
(英名)	Nevanac Ophthalmic Suspension 0.1%
(規格・含有量)	5mL/瓶 1mL 中ネパフェナク 1mg を含量
(一般名)	ネパフェナク懸濁性点眼液
(メーカー名)	日本アルコン
【薬価収載日】	2010 年 12 月
【薬価】	186.20 円/1mL
【薬効コード】	871319
【薬効分類名】	非ステロイド性抗炎症点眼剤
効能・効果	内眼手術における術後炎症
用法・用量	通常、手術前日より、用時よく振り混ぜた後、1 回 1 滴、1 日 3 回点眼する。但し、手術日は術前 3 回、術後 1 回点眼する。
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	他剤作用増強 ①ヒダントイン系抗てんかん剤 ②クマリン系抗凝固剤 ③サルファ剤 ④スルホニル尿素系血糖降下剤
副作用	重大な副作用 角膜潰瘍、角膜穿孔 その他 眼の異物感(0.4%)、アレルギー性結膜炎(0.4%)など

削除医薬品通知

●8月1日より

ロカルトロール Cap 0.25	削除
プログラフ注射液 5mg/1mL	消尽後削除
セレナール錠 10mg	削除
ケイキサレート散 5gヒート	削除
エパデール S 600	削除
アイオジピン UD 点眼液 1% 0.1mL×2個	削除

医薬品変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
ケイキサレートドライシロップ 76%	ケイキサレート散 5gヒート
エパデール S 900	エパデール S 600
プログラフ注射液 2mg/0.4mL	プログラフ注射液 5mg/1mL

医薬品規格追加通知

今回採用医薬品

●8月1日より

ネスプ注射液 120 μ g/0.6mL プラシリンジ

適応追加通知

ガバペン錠 200mg・400mg	<p><用法・用量></p> <p>通常、成人及び13歳以上の小児にはガバペンチンとして初日1日量600mg、2日目1日量1200mgをそれぞれ3回に分割経口投与する。3日目以降は、維持量として1日量1200mg～1800mgを3回に分割経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、1日最高投与量は2400mgまでとする。</p> <p>通常、3～12歳の幼児及び小児にはガバペンチンとして初日1日量10mg/kg、2日目1日量20mg/kgをそれぞれ3回に分割経口投与する。3日目以降は維持量として、3～4歳の幼児には1日量40mg/kg、5～12歳の幼児及び小児には1日量25～35mg/kgを3回に分割経口投与する。症状により適宜増減するが、1日最高投与量は50mg/kgまでとする。なお、いずれの時期における投与量についても、成人及び13歳以上の小児での投与量を超えないこととする。</p>
ラミクタール錠 25mg	<p>双極性障害における気分エピソードの再発・再燃抑制</p> <p>単剤療法の場合</p> <p>通常、成人にはラモトリギンとして最初の2週間は1日25mgを1回経口投与、次の2週間は1日50mgを1回又は2回に分割して経口投与し、5週目は1日100mgを1回又は2回に分割して経口投与する。6週目以降は維持用量として1日200mgを1回又は2回に分割して経口投与する。症状に応じて適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて最大100mgずつ、1日用量は最大400mgまでとし、いずれも1日1回又は2回に分割して経口投与する。</p> <p>バルプロ酸ナトリウムを併用する場合</p> <p>通常、成人にはラモトリギンとして最初の2週間は1回25mgを隔日に経口投与、次の2週間は1日25mgを1回経口投与し、5週目は1日50mgを1回又は2回に分割して経口投与する。6週目以降は維持用量として1日100mgを1回又は2回に分割して経口投与する。症状に応じて適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて最大50mgずつ、1日用量は最大200mgまでとし、いずれも1日1回又は2回に分割して経口投与する。</p> <p>バルプロ酸ナトリウムを併用しない場合</p> <p>1. 本剤のグルクロン酸抱合を誘導する薬剤を併用する場合</p> <p>通常、成人にはラモトリギンとして最初の2週間は1日50mgを1回経口投与、次の2週間は1日100mgを2回に分割して経口投与し、5週目は1日200mgを2回に分割して経口投与する。6週目は1日300mgを2回に分割して経口投与し、7週目以降は維持用量として1日300～400mgを2回に分割して経口投与する。症状に応じて適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて最大100mgずつ、1日用量は最大400mgまでとし、いずれも1日2回に分割して経口投与する。</p> <p>2. 1.以外の薬剤を併用する場合</p> <p>単剤療法の場合に従う。</p>
クラビット錠 500mg・細粒 10%	<p><適応菌種></p> <p>肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ)、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)</p>
イムラン錠	<p>治療抵抗性の下記リウマチ性疾患</p> <p>全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎、ヴェゲナ肉芽腫症、結節性多発動脈炎、Churg-Strauss症候群、大動脈炎症候群等)、全身性エリテマトーデス(SLE)、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、及び難治性リウマチ性疾患</p> <p>通常、成人及び小児には、1日量として1～2mg/kg相当量を経口投与する。なお、症状により適宜増減可能であるが1日量として3mg/kgを超えないこと。</p>